

教師の腕前診断

今回のテーマ

「効率的かつ充実した家庭訪問」

新学期が始まると家庭訪問が実施されます。保護者との信頼関係を築く貴重な時間です。そのためには訪問の予定時刻を守る事が最も大切です。また、「先生は我が子のことをよく知っている」という保護者の期待に、しっかりと応えたいものです。

効率的かつ充実した家庭訪問ができるようにするには、どうしたらよいでしょうか。

1 訪問先に着くまで

Q1 回る順番はどうしますか？

- ① 学校の近くから回る。
- ② 学校に遠いところから回る。

「②」の遠いところから始めることをお勧めします。

その日の訪問を予定している児童全員と一緒に下校します。学校の近くの児童から帰宅することになり、実際に訪問する前に児童の家を確認できます。一緒に帰ることにより会話が弾み、学校では見せない児童の素顔を知る機会にもなります。

また、下校しながら、誰と誰の家が近いかを確認します。欠席した児童の連絡帳を頼む時の参考にするためです。「僕の家が近いから連絡帳を届けます」と買って出られる子がいると、教師はその言葉を鵜呑みにして連絡帳を頼んでしまいます。ところが、「家が近く」といっても、交通量の多い道を横断するかもしれません。自転車で「近い」のかもしれない。連絡帳を頼んだばかりに事故に合う可能性があるかもしれません。連絡帳を届

けるために時間をかけて遠回りをするようでは、その子の負担になります。連絡帳を届ける経緯を知らない保護者からは「欠席した〇〇君の家は遠いのに」と誤解されることにもなりかねません。そんなことにならないためにも、児童宅の位置関係を確認します。

児童と下校しながら一番遠い家に着きました。今度は、学校に向かって、登校通学路の順に家庭訪問を開始することになります。同じ道でも登下校（往路と復路）では景色が異なります。違う場所を歩いている感じがします。一緒に下校している時には気づかなかつた発見があります。

Q2

児童と一緒に下校中に、後でひとりでは見つけられないと感じる家があったらどうしますか？

- ① 手帳などに目印をメモする。
- ② デジタルカメラで記念写真。
- ③ パンくずをまきながら歩く。



母方の祖父と同居している場合は、児童の姓と異なる表札がかかっていたり、表札・住居表示がなかったりする家があります。

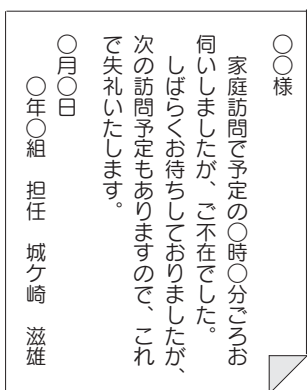
こんな時のために、下校した児童と「さよなら」するたびにデジタルカメラ（または携帯電話のフォト機能）で記念写真を撮ります。児童と玄関、目印となる場所を撮影しておきます。確信が持てない時は、それを再生して確かめます。さらに、帰校後にプリントアウトして通学路調査に添付します。

Q3

訪問した児童宅が不在だったら、どうしますか？

- ① 次の予定児童宅に向かい、再訪問はしない。
- ② 改めて訪問する。
- ③ 帰ってくるまで待つ。
- ④ 伝言メモを置く。

「④」の伝言メモを置くことにしています。イメージとしては宅配便の不在メモと同じです。事前に左のようなメモを印刷し、持参します。



伝言メモ（不在メモ）にはあえて、再度訪問することは書きません。大方の保護者は帰校したところを見計らってお詫びの電話を入れるか、翌日に謝罪の手紙を書いています。そんな時に再度の家庭訪問を頼む保護者は稀です。そこが保護者との関係作りのチャンス

です。担任から家庭訪問を切り出します。すると、恐縮しながら教師の都合に合わせてくれます。また、「申し訳ない」からと担任の申し出を遠慮しながら辞退する保護者もいます。そんな時には「わかりました。ただ、お子さんの家を知るのも担任の大切な仕事です。訪問期間中に確認だけはさせて頂きます。そのとき、チャイムは鳴らします。もし、ご在宅なら少しお時間をいただけますか。私の都合でお伺いするので万障繰り合わせることはなさらないでください」と伝えます。

2 面談中

面談が始まって、保護者が「学校ではどうでしょうか」と聞いてきます。「保護者は何を聞きたいのだろう、何を心配しているのだろう」と思案してしまうと、その一瞬に聞かれます。この間を保護者が「この先生は即答できないんだ」と曲げてとらえてしまうと、担任は信用を失ってしまいます。では、どうすればよいのでしょうか。

Q4

保護者に「学校ではどうでしょうか」と聞かれたら？

- ①「何がですか？」と聞き返す。
- ②「友達関係は……」と教師の土俵で答える。
- ③とりあえず「大丈夫ですよ」と答える。

「②」のように教師が知り得ている情報を提供します。親が知りたがるような項目を事前に子どもからアンケートしておくとういでしょう。

<アンケートの例>

	今年	去年
一緒に帰る人		
よく遊ぶ人		
好きな勉強		
楽しいこと		
好きな給食		
おうちの人の好きなところ		
おうちの人へお願い		

保護者が特に心配していることは、我が子がいじめられていないか、孤立していないかなどの友達関係です。また、進級すると勉強が難しくなります。それについて行けるかも心配しています。

親が心配しているだろうと思われる項目のアンケートを事前にとっておけば、「どうでしょうか」と聞かれても、即答できます。それが、次への会話の呼び水となります。すると、保護者は「この先生は短期間のうちに我が子のことをこんなにも知ってくれている」と評価します。

Q5

もしも面談で、家庭環境調査票に書いていないような個人情報を知ったら、どうしますか？

- ① 面談しながらメモする。
- ② 次の訪問先までにメモする。
- ③ 学校に戻ってからメモする。
- ④ 携帯電話のボイスメモを使う。

「④」の携帯電話のボイスメモがお勧めです。面談しながらのメモは失礼に当たります。次の訪問先に向かいながらメモを取ると立ち止まって書くことになり、次の予定時刻に食い込みます。帰校してからは、忘れてしまうこと

もあります。そこで、携帯電話の活用です。携帯電話には便利な機能がついています。そのひとつにボイスメモがあります。そこに個人情報を書き録音します。これですと、歩きながら録音できます。その日の家庭訪問が終わって帰校後、付箋紙に転記し家庭環境調査票に貼り付けます。家庭環境調査票は年度末に返却するので担任が書き加えることは法度です。また、重大な個人情報はずくに管理職に報告します。

Q6

面談中に予定時間を過ぎたかと感じる時はどうしますか？

- ① 時間を気にせず話を続ける。
- ② 腕時計を見て確認する。
- ③ 携帯電話のタイマーをマナーモードでセットしておく。

せっかく話が盛り上がってきたにもかかわらず、予定時間が迫っているような気がしますが、だからといって時計を見るのは失礼です。「何時ですか」と聞くのは非常識です。そこで、携帯電話です。カウントダウンタイマーをマナーモードでセットし、ポケットにしまいます。タイムアップになると、ブルブルと振動します。それを合図に話を終わらせます。

保護者に不愉快な思いを生じさせないために、初対面の挨拶の後に「短い時間ですので、話の途中で失礼することになることもあります。ご了承ください」とあらかじめ断りを入れておくとういでしょう。

「一年の計は元旦にあり」ではないですが、「今年度の計は家庭訪問にあり」です。